

■ 2部は北海道科学大が優勝。道学生選手権第8節第1日

第51回北海道学生アメリカンフットボール選手権第8節第1日は10月12日、江別市の札幌学院大グラウンドで2部の1試合を行い、北海道科学大が北星学園大を48-0で下し、2戦全勝で2年連続の優勝を決めた。2部は全日程を終了し、最終成績は①北海道科学大（2勝）②北星学園大（1勝1敗）③札幌学院大（2敗）となった。北海道科学大は最終節の10月26日、14年ぶりの1部復帰をかけて1部最下位校と入れ替え戦を行う。第8節最終日の10月13日は、札幌市円山競技場で1部の北海道大-東京農業大（午前10時開始）、北海学園大-釧路公立大（午後1時開始）の2試合を行う。

3校で争った2部の優勝決定戦となった北海道科学大―北星学園大戦は、北海道科学大が攻守に圧倒し、2試合連続の完封勝ちを収めた。



北海道科学大は第1Q6分、QB竹内一晴（3年）の8ヤードキープで先制すると、同11分にはRB山保海人（2年）の24ヤードランで15-0。第2Qは開始直後にWR今野裕太（3年）の52ヤードパントリターンTDで追加点を奪うと、7分にはRB竹内連也（3年）の2ヤードランで加点し、前半を28-0で折り返した。第3Qには、1分にRB山保の34ヤードラン、7分にRB竹内連也の59ヤードラン、11分にRB武部朔也（3年）の4ヤ-

ドラんでTDを加え、48-0とリードを広げた。

選手12人の北星学園大は、QB伊藤昊咲く（2年）のパスとRB松山真太郎（2年）のランなどで反撃。WR／DB穴戸諒太の連続パスキャッチとインターセプト、WR／LB山田涼凱のインターセプトなど1年生も好プレーを見せたが、得意のパス攻撃が要所で北海道科学大守備にカットされ、敵陣に攻め込むのが精いっぱいだった。

北海道科学大の土屋竜馬HCは「ライン戦で勝てたのが勝因。キッキングゲームも攻め込めた」と選手たちをたたえたうえで、前年惜敗した入れ替え戦に向けて「戦力がそろったので、自分たちのプレーが出来れば勝てる」と自信を見せた。札幌学院大戦のキックオフリターンTDに続くビッグプレーを見せたWR今野は「パントリターンの場面はブロックが完成していて、ゴールまでの道が見えた。入れ替え戦ではLBの守備でも頑張りたい」と決意していた。

北星学園大の戸田元基監督は「1、2年生が活躍したが、選手層の差が出た。新チームは、OB会の支援も受けてリクルーティングから力を入れたい」とチーム再建に力を込めた。WR／LBの清家海地主将は「1年生が活躍した。来年は1部に昇格し、再来年は1部の上位に食い込むチームになってほしい」と後輩たちに託した。

（学連広報委員 塚田博）